

平成22年度 第2回がまごおり協働まちづくり会議 会議録

日 時 平成22年 6月 7日(月)

14時00分～

場 所 蒲郡市役所 新館5階 庁議室

参加者：和泉会長、金子副会長、西川委員、尾崎委員、水野委員、山本久代委員、小田委員、藤田委員、山本喜是委員、小林憲三委員
(事務局)竹内、酒井、小山、石川、森

1 開会

2 委員委嘱

総代連合会 会長 山本様

3 議題

～委員自己紹介と近況報告～(小林委員欠席のため、次回自己紹介)

1) まちづくり会議の傍聴について

(会長)

まちづくり会議の傍聴について水野委員から申し出があった。現状の規則では規定がない。まちづくり会議規則第9条に「この規則に定めるもののほか、まちづくり会議の運営に関し必要な事項は、会長がまちづくり会議に諮って定める。」に従い傍聴を提案するがどうか。

(全委員)

異議なし。

(会長)

今後、希望があれば傍聴可能にする。

2) がまごおりまちづくり賞について

(事務局)

～がまごおりまちづくり賞実施要綱について説明～

第5回のまちづくり賞の候補者は「この指とまれの会 本多公子」。候補者の検討をしてほしい。

(副会長)

蒲郡まつりで小学生を中心に幼稚園児からシニアまでが出演したミュージカルを行っている団体。今年20作品目になる。

(会長)

この推薦は会か、個人か？

(副会長)

今までは団体が受賞している。今回については推薦書を見ると個人表彰。

(会長)

重要なのは団体の皆がまちづくりをやっているということ。「この指とまれの会 代表 本多公子」とすればいいのではないか。

(委員)

推薦書だけみると団体の代表として表彰するのがいいのではないか。個人として表彰するならば個人に対する推薦文が一文でもあるといい。

(事務局)

今回は個人ではなく「この指とまれの会の代表」として表彰するのがふさわしいのではないか。

(会長)

がまごおりまちづくり賞候補者は「この指とまれの会 代表 本多公子」とする。

3) 助成金について

(事務局)

4/27(火)に<ほとばしる情熱支援部門><はじめの一步部門>の助成団体(10団体)が第1回情報交換会を行った。

(事務局)

会では自己紹介や現状報告などを行った。

G♥Child 4月に行く予定だった事業が行えなかったのどうするか。

広報に記事を掲載したい場合はいつまでに申し込めばいいのか。

会議室の部屋代は減免してもらえるのか。

などの質問、問題がでた。

(副会長)

<はじめの一步部門>ではプレゼンテーションがなかったため、初顔合わせだった。

春日桜会がマムシにかまれた経験を話すと、動物福祉の会「蒲郡ハーツ」が保険の検討をしたり、手作り紙芝居の会が以前ホテルについての紙芝居を行ったことを尺地川・蛍の会が初めて知ったりとお互いの活動を知るいい機会となった。

(会長)

ネットワークをつくることは非常に大切。これからまちづくりセンターの役割はますます大きくなっていくと思う。

(事務局)

~資料 平成23年度 はじめの一步に向けた取組みについて~

(会長)

「問題点 9月末までの募集が1回で終わってしまった」「問題点 書類不備があり、団体に再確認した」について。

1団体の上限金額が高いのか、総額が少ないのか。

(委員)

前期、後期など区分けも必要ではないか。

まちづくりセンターに限らず別枠の予算で救済枠を設けたほうがいいのではないかと。

まちづくりセンターの業務内容をこれから検討していかなければいけない。

(会長)

初めて行う事業はどうやって導いていくか、まちづくりセンターが行っていかないとはいけないと思う。マンパワーにはそれなりの予算の裏付けが必要。

問題点 については見直すのはまだ早いのではないかと。

問題点 は見直す必要がある。

(副会長)

センターに権限がないため意見を聞いてくれない。

募集時期が毎月・随時は理想論。2・3回に区分した方がいい。いい活動を行っている団体から相談を受けていたが募集が1回で終わってしまったのでエントリーできなくて残念。

応募金額の上限を1団体5万円にしたなら最低でも10団体が助成されることになるので、10団体をサポートするのは大変。

(委員)

問題点 はもう少し経ってから検討してもいいのではないかと。

問題点 についてはお金をもらうことは簡単ではない。申請すればすぐもらえるのはどうかと思うので、事前に予算の審査などを行うのはどうか。事前審査を行うにもやはりマンパワーが必要。

(委員)

もう少し様子を見たほうがいいのではないかと。

(委員)

問題点 については、募集期間については考えていかなければいけないと思うが何年後には落ち着くのではないかと。

問題点 については<はじめの一步部門>の助成金の方向性をきちんと示すべきではないかと。

(委員)

募集が終わってしまったのは残念。勉強会があってから応募という形があってもいい。

(委員)

書類不備については書類についての説明がもっと必要ではないかと。

(委員)

問題点 については市民の関心が非常に高いのからだと思う。3年くらいやって同じようなら考えていけばいい。募集期間が1回で終わってしまったことは成功の証ではないかと。

問題点 については申請書の見本があればほとんど書ける。

(会長)

<はじめの一步部門>は2・3人で思い立ったときに申請できるようにできた部門。書類に関しては初めての人にも分かるようにマニュアルを作る方がいい。

(委員)

予算の件で、実績があれば50万から100万へは可能。マンパワーが課題。

(副会長)

NPOとの契約の仕方も議論が必要になっている。

(会長)

過去の申請書の開示は可能か。

(事務局)

可能。

(会長)

今回の議論をふまえて、まちづくりセンターで素案を出してもらい次回の会議にかけた
い。

(副会長)

素案の参考にしたいので各委員へ意見をメールでお願いしたい。

4) 食育プロジェクトについて

(委員)

～資料 平成22年度食育プロジェクト事業計画案 年間タイムスケジュール案説明～

(会長)

矢印などを利用して表を工夫していくとよい。

4 その他

(事務局)

各団体にケーブルテレビに取材の依頼をした。「パソコンクラブごごみ」と「尺地川・蛍
の会」は取材を行った。近日、放映予定。

次回は7/29(木)10時～